

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000285		
法人名	社会福祉法人一誠福祉会		
事業所名	グループホームうらら(あゆの里)		
所在地	愛知県新城市矢部字上の川1番地4		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2374000285-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和4年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のノーマライゼーションとホームの理念である「笑・快・安」を基本とし、利用者の持てる力を最大限発揮して頂ける様な支援を心がけています。日常生活では、調理や洗濯、掃除を取り入れ家庭的な雰囲気を重視しています。
現在、感染症予防の為外出行事を控えており、他施設との交流も無くなってしまっていますが、出来る限り季節ごとの行事を取り入れ、楽しんでいただけるよう支援しています。日中は出来る限り身体を動かして頂く事で、夜間十分な睡眠がとれるように支援をし、利用者の健康管理に気を付けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
②軽減要件確認票
③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念である「笑・快・安」を基本とし、家庭的で心地よく、安心して生活して頂けるよう支援に努めています。職員が理念を理解・共有することで実践につなげられるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの流行以前は地域の行事、祭礼・盆踊り・避難訓練・運動会等に入居者の方々も参加させていただき地域との交流が持てる様にしていたが、現在は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェを他事業所と共同で毎月一回行ない、地域の方々にも参加を呼びかけ、入居者への理解を持ってもらえるように実践していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防にて参加の自粛をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は新型コロナウイルス予防の為書面での報告となっていますが、家族や地域の代表者の方々、他事業所の方々にホームの活動内容等を報告している。意見をいただいた際は、それに基づきサービスの向上に繋げられるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者と連絡を密に取っているとは言えないが適時管理者や担当職員が連絡を取り合い、事故や疑問点、問題点があれば報告や問い合わせを行ない連携が図れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は19時～8時(翌日)の夜間帯以外はしていない。日中、職員の手が足りずに見守りが十分に出来ない、危険だと予想される場合は一次的に施錠を行なっている。また月に1回のユニット会議において現状のケアが身体拘束等に該当するか話し合いの場を設け、取り組みなどは運営推進会議で話す機会も設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等があれば順番で参加し、資料を回覧している。入居者の方に対しての対応で気になる点があった際は、会議や職員間での話し合いの場を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修の機会があれば代表者が参加し資料を回覧出来る様にしている。 ホーム全体で学ぶ機会をもっているとは言いがたく、各職員の自己学習になってしまっている。後見人が付いている入居者さんも居られるのでその方から学ぶ機会は持っている部分もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	制度改正の事前説明・入退居の相談等、重要事項説明書を基に契約内容を説明したのち、疑問点等を伺っている。その後も入居者やご家族から疑問点等があれば推進会議・訪問時・電話等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置したり、毎月のお便りに無記名で意見を記入できる用紙を同封することで、直接意見・ご指導を聞く機会を設けている。いただいた意見は運営に反映させられるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のユニット会議や日々の申し送り等適時必要であればその都度職員から意見を出してもらい出来る限り聞き取る場を設けている。また運営に反映出来る様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務評価については、日々の勤務状況から評価を行っている。また各職員は、係・行事などの担当があり、向上心を持って働けるようにしている。キャリアパス制度を導入し評価基準に合わせて適正に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が個々の能力に見合った外部研修に参加出来る体制を作り、実践している。 新たに配属された職員に対しては、仕事に慣れるまでの期間、指導役の職員を配置し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新型コロナウイルスの流行以前は、法人内外の推進会議・共同企画行事等に参加していたが、現在は行えていない。 流行の緩和が見られた際は、徐々に再開していけるよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時や入居してからも、本人の思いに耳を傾ける努力をしている。話を聞くなかでその方の不安や要望などを理解し、どうすれば不安なくホームで共同生活をしていけるか配慮する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期段階で、ご家族の介護への悩みや不安を傾聴し、出来る限り希望を受入れ、お互いが信頼できる関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の話しを傾聴し、ホームのサービス利用が本人や家族が必要としている支援か見極め、他のサービスの利用も含めて検討し、相談や助言、紹介ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の食事作りや洗濯物たたみ、菜園活動等、本人の出来る事・出来ない事を考慮しながら声掛けをし、一緒に作業をすることでお互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の定期受診や散髪は出来る限りご家族に支援して頂いている。家族の支援が困難な部分はホームで支援しともに本人を支える関係を築ける努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、新型コロナウイルス感染予防の為、外出を自粛しているが、事態が落ち着いたら馴染みの場所への外出も再開出来る様にしたい。 面会はオンライン面会を活用することで行える様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や利用者同士の相性を把握し、その日の状況も踏まえて個別あるいは一緒に活動を行っている。また出来ない事でも、職員付き添いのもと一緒に行う事でお互いともに生活する仲間という意識が持てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も今後の方向性の助言や他施設への紹介や案内を行っている。施設サービスが終了してからもホームに立ち寄って下さるご家族さんもいらっしゃいます。本人や家族から相談があればその都度対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人の思いや希望を聞く努力をしている。また、聞き取った思いや希望を職員全体で共有し、可能な限りその意向に添えるように努めている。困難な場合は、出来るだけ本人の立場になって検討出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、これまでサービス利用を担当してきたケアマネや事業所などに聞き取りし、把握に努め、ホームのサービスに出来る限り反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の日々の様子を記録に残し、生活習慣や心身状態の把握に努めている。変化があった際は、職員間で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に本人や家族、関係者の意見や意向を取り入れながら、スタッフ間で話し合いを行い、現状に即した計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子やケアの実践・結果を記入、気づきや工夫を連絡ノートに記入することで情報を共有し、会議の際に見直し出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者や家族一人ひとりの違いを理解し、それぞれの意向に沿ったケアを実践出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルス流行以前は地域行事(祭礼・運動会等)や市の行事に参加していたが、現在は中断されている。再開された際には、また以前のように参加出来るよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には、かかりつけ医を継続して頂き、定期受診も出来る限り家族にお願いをしている。また、家族の状況に応じ受診の送迎援助を行ったり、ホームで受診援助をすることで適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職は、日頃より入居者の身体観察を行い、異変が見られたら看護師に報告や相談をし指示を仰いでいる。看護師が休日の場合は、併設する特養の看護師へ協力して貰い、適切な処置や受診が受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き、状況を把握すると同時に、早期退院に向けて病院関係者と話し合いをしている。又、退院後の支援方法の相談をし、助言をもらうことで病院関係者との関係をつくれるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当施設では看取りの対応は原則として行っていないが、本人の状態やADLレベルを踏まえ共同生活が困難になる前の早い段階から家族と話し合いを行い、必要に応じて他サービスの紹介や移行の相談・助言をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の研修や勉強会に定期的に参加し、学びの機会を作っている。また、ホームの看護師に緊急時の対応方法を学ぶことで全職員が徐所に実践力を身に付けてきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に併設施設と合同避難訓練(日中・夜間想定)を行い、ホーム独自にも年2回訓練を行なっている。コロナウイルス流行以前は地域で行われる防災訓練にも参加していたが現在は参加出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重する様な声掛けや対応が出来る様に心掛けている。また、あまり堅苦しくならず、馴れ合い過ぎにもならないような声掛けが出来るよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人が思いや希望を表現出来る様な声掛けや雰囲気作りが出来るよう心掛けている。また、職員ではなく入居者が自己決定できる様な働きかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、その時々本人の気持ちを尊重し、出来る限り個別的な対応が出来るよう努力している。また、入居者のペースでゆっくりと関わる事を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己にておしゃれや整容が出来る方には行って頂いている。自己にて整容が難しい方には、職員がその人らしいおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は楽しい雰囲気の中本人のペースで召し上がって頂ける様一人ひとりの好みや量、食事形態にも工夫している。食事準備や片付け等一人ひとりの出来る事を職員が見極め、出来るだけ一緒に行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食食事摂取量をチェックし、入居者の状態に応じて粥や刻み食など工夫して提供している。水分摂取量も食事とは別にお茶の時間を設けることで確保出来るよう支援している。また希望に応じてお茶やコーヒー、ジュースなど好みのものを把握し提供出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛けし口腔ケアを行っている。自己にて出来ない方には職員が介入している。必要であれば歯科受診の検討や受診援助も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせた対応や声掛け、排泄介助が出来る様に努めるとともに、自立に向けたケアを心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルトを提供し、食事メニューも食物繊維が取れるよう工夫している。食事の工夫の他にも水分摂取や運動を心掛ける様にし、出来るだけ薬に頼らない便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は毎日行っているが、時間は15時～18時頃までと決めてしまっている。 入る、入らないはご本人の意向に沿い、入浴の順番や入浴時間の要望があれば希望に添えるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣やリズムを尊重し、本人のペースで生活して頂いている。また本人の心身状況や体調をみて日中も休憩時間を設ける等している。夜間も特に就寝時間は決めず、個々の就寝習慣を尊重し、安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は看護師が行い、介護士はその指示に従い服薬支援を行っている。 介護士は看護師から服薬の目的や用法について説明を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や得意な事を聞き出し、一人ひとり楽しみが見つけられるよう支援している。 一人ひとりの出来る事に合わせた家事活動に参加して頂くことで役割を見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルス感染予防の為、外出は自粛しているが、状況が落ち着いた際は希望する場所への外出が再開出来るよう支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の殆どは自己管理が困難である為、ホームでお小遣いとして管理している。希望の品や必要な物がある時は職員が買物に同行し購入や支払いの支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人との交流を継続する為、入居者から希望があった際は電話や手紙でのやり取りができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごして頂ける様に共用空間の掃除や整理整頓に努めている。トイレや浴室などはプライバシーに配慮し、その他の空間も音、光、室温などに気を配っている。 デイルームや廊下などに入居者さんの写真を掲示したり、テーブルに季節ごとに花を飾り、楽しんで頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は自由にしてもらっているが、自然と個々の慣れた場所や席で落ち着かれている。ソファを配置し気の合う者同士で楽しく心地よく過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた使い慣れた家具を使用する事で自分の部屋として落ち着いて暮らせる様に環境を整えている。家具等は入居者・ご家族で自由に配置して頂いている。安全面を考慮し、スタッフから配置換えを提案し変更したり、家具や補助具の購入やレンタル等の安全面を考慮した助言等も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事に着目し、出来る限り自立支援を心掛け、安全かつ安心した生活を送っていただけるように工夫している。		